

平成17年9月中間期

会社説明資料

平成17年12月

 **株式会社光製作所**

(ジャスダック・8191)

会社のプロフィール

 株式会社 光製作所

平成17年9月現在

商号 株式会社光製作所

本社 東京都荒川区東尾久4丁目7番1号

代表者 代表取締役社長 安岡 光雄

設立 昭和34年4月

資本金 3,887百万円

売上高 13,020百万円(平成17年3月期実績)

従業員 71人

会社の沿革



- 昭和30年8月 荒川区尾久町2丁目434番地において代表取締役社長安岡光雄が有限会社安岡製作所を設立創業。
- 昭和34年4月 資本金1百万円の株式会社に改組、商号を株式会社光製作所に変更。
- 昭和38年3月 大阪市生野区に大阪支店を新設。
- 昭和45年10月 足立区に小台配送センターを新設。
- 昭和47年6月 大阪支店を大阪支社の改称、併せて現在地に支社ビルを新築移転。
- 昭和52年1月 業務拡張に伴い現在地に光流通倉庫を新築、同時に小台配送センターを廃止。
- 昭和56年9月 東京店頭登録銘柄として店頭市場へ株式を公開。
- 昭和59年3月 資本金を3,887百万円に増資。
- 平成16年12月 株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。

事業内容

当社の企業集団は、当社、親会社、関連会社26社で構成され、業務用家具、リビング用家具、インテリア商品、育児・学童家具及びオフィス家具の販売並びに不動産の賃貸を主な業務内容として、事業活動を展開しております。



平成17年9月中間期

決算概要

 株式会社 光製作所

(ジャスダック・8191)

当中間期におけるわが国経済は、原油価格の高騰等の不安要因があったものの、企業収益の改善から民間設備投資は増加し個人消費は底堅く、株価も上昇基調となり、景気は緩やかな回復傾向のうちに推移いたしました。

当家具・インテリア業界は景気動向に遅延しており、耐久消費財である家具への消費マインドは改善の兆しが見えず業績の回復にまでは至らない状態でありました。加えて企業間競争が激化し厳しさが増しております。

このような経済環境下におきまして、当社は消費者ニーズを捉えた市場競争力のある商品開発と営業活動を推進してまいりました。その結果、売上高は5,364百万円(前年同期比2.3%減少)となりました。

利益面では、営業利益は1,092百万円(前年同期比7.2%増加)、経常利益ではオプション評価益360百万円の発生等により、1,676百万円(前年同期比46.8%増加)となりましたが、中間純利益は、特別損失として758百万円の引当金の計上等があり、477百万円(前年同期比32.6%減少)となりました。

中間損益計算書(非連結)



(単位:百万円)

	17年9月中間期	16年9月中間期	増減額	備考
売上高	5,364	5,490	△ 125	
売上原価	3,834	3,985	△ 151	
売上総利益	1,530	1,505	25	
販売・管理費	438	485	△ 46	
営業利益	1,092	1,019	72	
営業外収益	640	135	504	
営業外費用	55	12	43	
経常利益	1,676	1,142	534	
特別利益	7	53	△ 45	
特別損失	876	0	876	
中間純利益	477	707	△ 230	

中間貸借対照表(非連結)



(単位:百万円)

	17年9月中間期	16年9月中間期	増減額	備考
流動資産	8,384	7,170	1,214	
固定資産	30,092	31,620	△ 1,527	
資産合計	38,477	38,790	△ 313	

流動負債	2,535	3,817	△ 1,281	
固定負債	1,797	1,757	40	
負債合計	4,333	5,574	△ 1,241	

資本金	3,887	3,887	—	
資本剰余金	4,947	4,947	—	
利益剰余金	24,887	24,199	687	
資本合計	34,143	33,216	927	

中間キャッシュ・フロー計算書(非連結)



(単位:百万円)

	17年9月中間期	16年9月中間期	増減額	備考
営業活動による キャッシュ・フロー	1,329	2,309	△ 979	税引前中間純利益が減益となり、また法人税等支払額が増加したため
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 610	623	△ 1,234	定期預金の預入等による
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 601	△ 2,861	2,260	短期借入金の減少が少なかったため
現金及び現金同等物の 増加額	288	173	114	
現金及び現金同等物の 期首残高	292	387	△ 95	
現金及び現金同等物の 中間期末残高	580	561	18	

セグメント別売上高

(単位:百万円)

セグメント	17年9月中間期		16年9月中間期		比較増減	
	売上高	構成比	売上高	構成比	金額	増減率
家具商品事業	4,034	75.2%	4,205	76.6%	△ 171	△ 4.1 %
不動産賃貸事業	1,330	24.8%	1,284	23.4%	45	3.6 %
合計	5,364	100.0%	5,490	100.0%	△ 125	△ 2.3 %

家具商品事業

業務用家具は、民間設備投資が堅調であるなか、新しい業態への取組みもあり、売上高は横ばいでしたが個人消費の動向に影響を受けるリビング用家具は、前年同期比13.3%の減少となり、全体として減収となりました。

不動産賃貸事業

新規稼動物件が寄与し着実な伸びを示しております。

平成18年3月期

業績予想

 株式会社旭製作所

(ジャスダック・8191)

平成18年3月期 業績予想（非連結） 株式会社 大塚製薬

（単位：百万円）

	18年3月期	17年3月期	増減額	備考
売上高	12,650	13,020	△ 370	
経常利益	2,764	2,619	144	
当期純利益	1,044	1,063	△ 19	
EPS（円）	55.62	56.62	—	
ROE	3.0%	3.1%	—	

EPS = 1株当たり当期純利益

ROE = 株主資本利益率

※ 業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき作成したものであります。実際の業績は様々な要因の変化により、記載の業績予想と異なる結果になる場合があります。

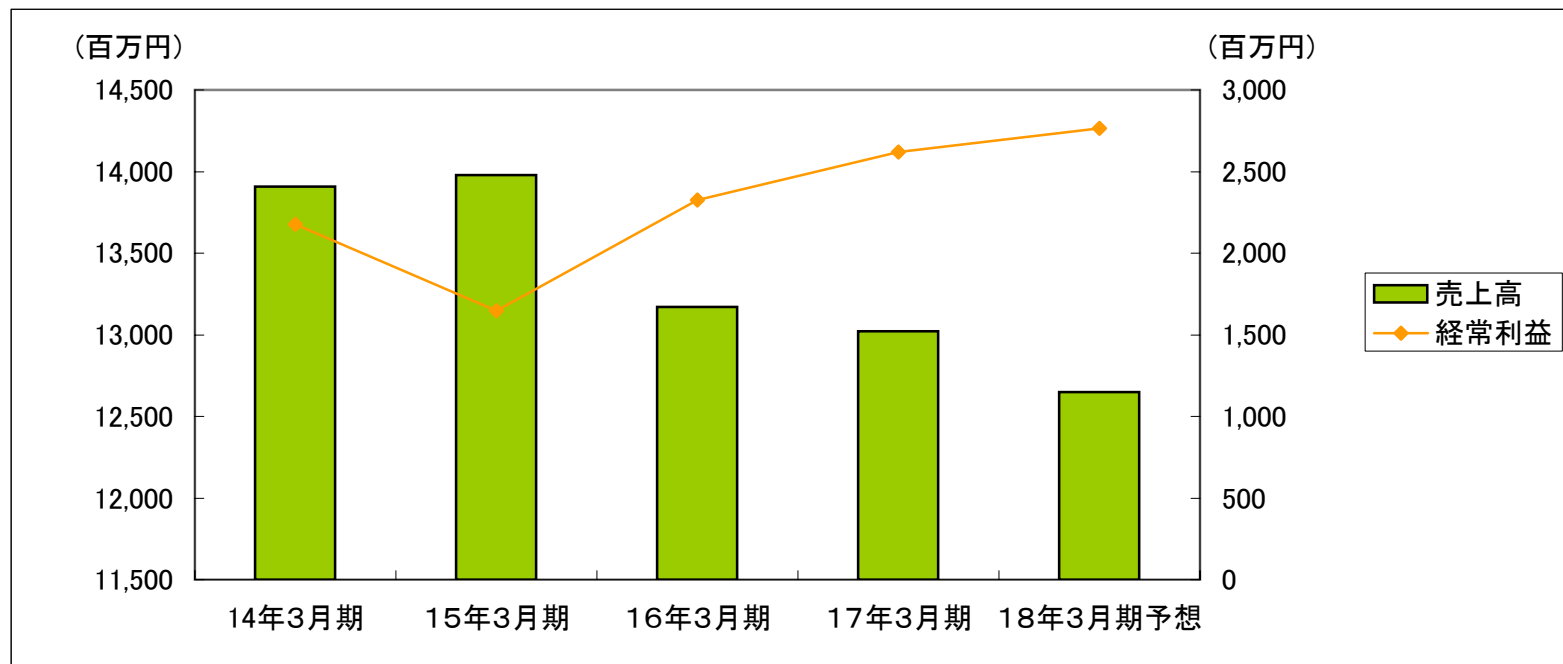
経営方針

当社は創業以来、家具を通じて「快適な住空間の創造」をテーマとし、市場における多種多様なニーズに応ずるべく商品の開発に努め、家具を安定的に供給することをもって社会に貢献することを基本方針としております。

今後の取り組み

当社は商品開発に注力して魅力ある商品、競争力のある商品を創造し、売上の拡大を図ることを目指します。また、グループ一丸となり、製造部門では原価の低減に努め、販売部門では、販路の開拓、拡充に向けた営業力の強化に努めることにより、家具市場でのシェアの拡大を図ることが重要課題であると考えております。さらに、企業の財務体質を強化し、効率的、継続的に利益を確保し、発展を続ける企業経営に向け邁進してゆく所存であります。

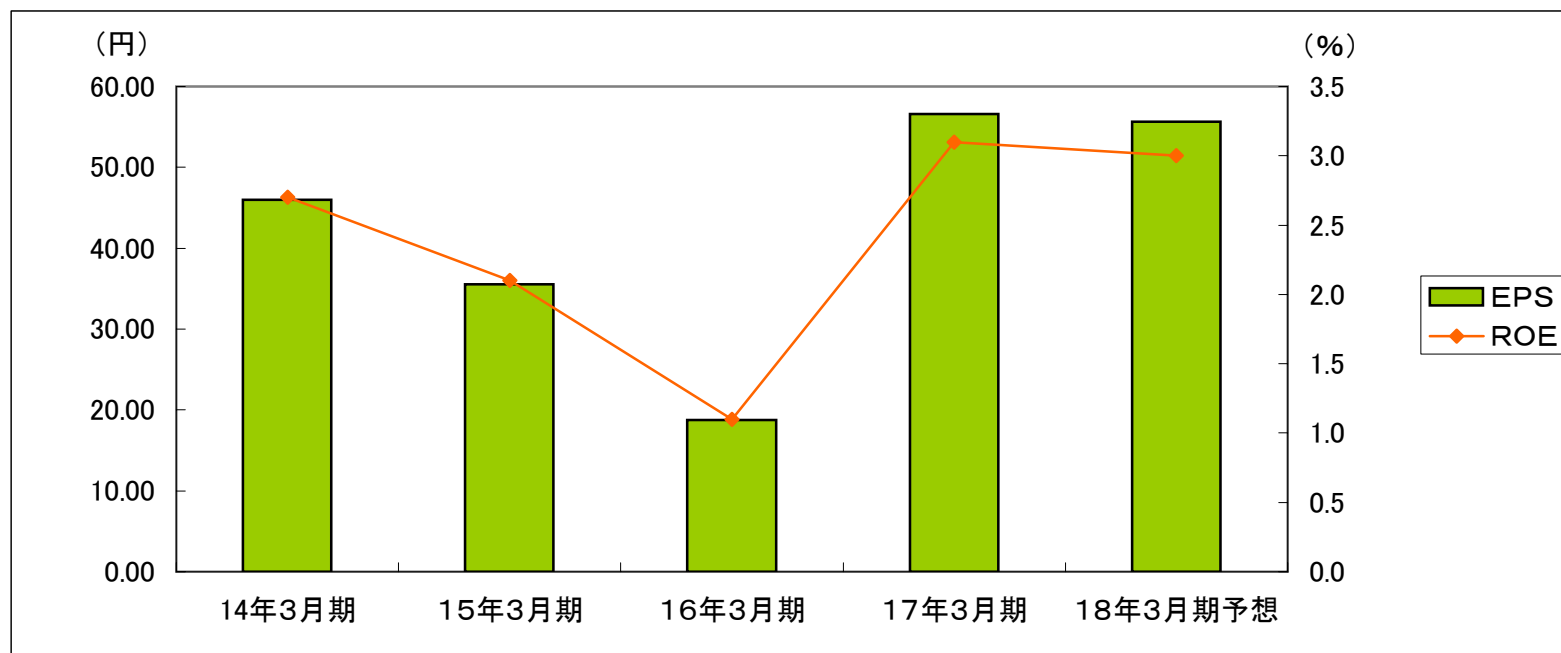
売上高・経常利益の推移(非連結)



(単位：百万円)

	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期予想
売上高	13,907	13,978	13,169	13,020	12,650
経常利益	2,177	1,646	2,324	2,619	2,764

EPS・ROEの推移



(単位: 百万円)

	14年3月期	15年3月期	16年3月期	17年3月期	18年3月期予想
EPS	46.00	35.55	18.79	56.62	55.62
ROE	2.7	2.1	1.1	3.1	3.0



株式会社 光製作所

総務部

TEL : 03-3800-0111